

ありがとう 繫中学校

繫中学校は、昭和22年に御所村立御所中学校繫分室として開校し、72年の歴史の中で1257人の卒業生を送り出しました。昭和60年からは、郷土伝統芸能である「つなぎさんさ太鼓」の伝承活動に取り組み、御所湖まつりをはじめとする地域の行事や盛岡さんさ踊りに出場するなど、地域との交流を深めてきました。



会場全体の人が声を合わせた別れの合唱

3月20日に開かれた閉校式には、卒業生や地域の住民約180人が出席し、慣れ親しんだ学校との別れを惜しみました。式典で校歌が流れると、出席者の中には歌いながら懐かしい思い出に浸り、思わずこみ上げた涙をハンカチで押さえる人も――。

小山田吉光校長は「郷土芸能の伝承活動を通じて、地域への誇りや思いやりの心が養われてきた。これからもその活動を絶やすことなく、繫小・中学校の卒業生の手で継承していきたい」と、地域の人たちへの感謝と伝承活動への敬意を表しました。

繫地域で住民に長く愛された市立繫中学校（繫字館市）が3月31日に閉校し、72年間の歴史に幕を下ろしました。「切磋琢磨」のローガンのもとに育まれた、繫中学校の歩みを紹介します。

最後の生徒会長となった卒業生の高橋愛菜さんは、生徒代表として「閉校が決まってから、行事がひとつ終わるたびに寂しい気持ちになりました。学校生活を無事に送れたのは両親や先生、地域の皆さんのおかげです。繫中学校での思い出を胸に、新しい学校でも充実した時間を過ごしていきます」と感謝の気持ちを語りました。

繫中最後の卒業生4人は、それぞれの進路に進み、在校生5人は4月から統合先の大宮中で新しい学校生活を送っています。



手を繋いで写る、繫中学生最後の集合写真。卒業生の皆さん（前列）を在校生が笑顔で見送ります

教室の黒板に描かれた卒業生の似顔絵



写真 de もりおか



市内で開催されたイベントや出来事を紹介します。紙面で紹介しきれなかった写真は、市公式ホームページの取材日記に掲載しています。



取材日記

3月9日

岩山公園から魅力発信



岩山公園（新庄字岩山）の駐車場に設置されている観光案内板をリニューアルしました。新しい案内板は、社会奉仕に取り組む盛岡東ロータリークラブ（柴田茂会長）から、同会の奉仕活動40周年を記念して寄付されたものです。同公園周辺の地図をはじめ、市内の観光地や祭りなど、盛岡の魅力が一目で分かるようになっています。見てみると、新しい発見があるかもしれません。

3月27日

もしもの時の心強い味方



岩手三菱自動車販売㈱と三菱自動車工業㈱の両社と「災害時における電動車両等の支援に関する協定」を締結しました。電動車両は、災害が起きた時には「移動できる電源」として、電気が必要な場所へ届けられます。谷藤裕明市長は「災害などによる停電時でも避難所の電力が確保できることは、生活の安心に繋がる。両社の支援体制に深く感謝します」と謝辞を述べました。

4月14日

春を彩る桜の便り



今年の桜の開花宣言は、記録的な暖冬のため、例年よりも7日早い4月14日となりました。盛岡城跡公園（内丸）では、開花を待ちわびた人たちが、標準木を見上げて花を探したり写真を撮ったりしながら、春の訪れを感じていました。

市内のソメイヨシノは葉桜になっていますが、サクラパーク姫神（日戸字姥懐）のオオヤマザクラはこれから見頃を迎えます。

ちょっとひといき

地産地消で盛岡を元気に！



新型コロナウイルス感染症の影響が、私たちの日常生活にも現れています。こんな時こそ、地元の生産者や事業者が精魂を込めて作った地元産の商品を買って、盛岡の産業を応援しましょう！

市公式ホームページでは、盛岡近郊で採れた新鮮な食材や加工品などを扱う産直を紹介しています。普段の買い物に産直を利用してみませんか。



もりけんに挑戦
(11ページに掲載)の答え
①花崗岩

広報もりおかへのご意見をお待ちしています
アンケート専用フォームから、特集や各記事への意見をお寄せください。あなたの意見が広報もりおかを育てます。



編集後記

繫中の閉校式当日は、御所湖がしぶきを上げて波打つほど風が強い日でした。それでも多くの人が集まり、繫中が地域に愛されていることを改めて感じました。(後藤)



地球環境に配慮し、
ベジタブルインキを
使用しています。